

事務事業名		商店街活性化対策事業				☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業						
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興				事業期間		予算科目						
	施策名	21 活気あふれる商業の振興						会計	款	項	目	事業		
	基本事業名	01 元気な商店街づくり						01	07	01	02	02		
根拠法令		大船渡市補助金交付規則												
所属	部課名	商工港湾部商業観光課				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 - 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～年度 ※全体計画欄の総投入量を記入								
	課長名	鈴木 弘												
	係名	商業係	電話	0192-27-3111										
	担当者	遠藤貴之	内線	106										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)										全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
商店街が販売促進や集客のための事業を実施し、商店街の活性化を図る場合に補助する。 主な業務は、国・県の商店街向け補助制度の案内や支援を行う。 事業費は、訪問予定事業所への職員の旅費、賃借料(駐車料)として支出される。										総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金	
													都道府県支出金	
													地方債	
													その他	
													一般財源	
													事業費計(A)	0
										人件費	正規職員従事人数			
											延べ業務時間			
											人件費計(B)	0		
										トータルコスト(A)+(B)		0		

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段(主な活動)					⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)					
前年度実績(前年度に行った主な活動)					名称					単位
・国・県の支援制度案内等の通知発送					ア	補助制度活用商店街数				団体
・国の補助制度活用商店街への支援					イ					
・大船渡駅周辺商圈規模算定に係るデータ収集					ウ					
今年度計画(今年度に計画している主な活動)					⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)					
・国・県の支援制度案内等の通知発送					名称					単位
・国の補助制度活用商店街への支援					カ	市内商店街等				団体
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等					キ					
市内各商店街等					ク					
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)					⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)					
○商店街が活性化する。					名称					単位
○魅力ある商店街になる。					サ	補助制度活用商店街数				団体
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)					シ					
商店街が賑わっている。					ス					
(2) 総事業費・指標等の推移										
		単位	年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	1,025	1,521	1	0	0	0	
	人件費	事業費計(A)	千円	1,025	1,521	1	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	20	8	8	8	8	8	
		人件費計(B)	千円	80	32	32	32	32	32	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	1,105	1,553	33	32	32	32	
⑤活動指標	ア	団体	1	1	2	1	1	1		
	イ		—	—						
	ウ									
⑥対象指標	カ	団体	1	1	11	11	11	11		
	キ		1	1						
	ク		—	—						
⑦成果指標	サ	団体	1	1	2	1	1	1		
	シ		—	—						
	ス									

事務事業ID	0377	事務事業名	商店街活性化対策事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期は不明であるが、不景気による消費者の買い控えと、郊外型大型店の進出等により、商店街の売り上げが伸び悩み、経営者の高齢化により、商店街の空洞化が進んでいることへの対策として創設された。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 商店街からの消費者離れは改善が見られず、依然として活力の衰退が続いている。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 市議会議員より、よさ恋グループの責任者から商店街の活性化対策として、本事業の継続を望む声とともに、補助金だけではなく人的援助を求める話があったとの要望が寄せられた。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映

事務事業ID	0377	事務事業名	商店街活性化対策事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 商店街の活性化のためには、集客の継続が図られるような事業の展開が望ましく、効果的なアイデアが創出されるよう、積極的に協議を行っていくことが必要と考えられる。																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 今後も国・県の補助制度の案内等を行っていく。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 売り上げの伸び悩みに加え、商店街経営者の高齢化によって、商店街としてのイベント等への取り組み姿勢が消極的となっているため、先頭に立って商店街の活性化に取り組む人材の育成が必要である。																							

4 事務事業の2次評価結果	(職 名) ※原則として施策の主管課長 (氏 名)
2次評価者	商業観光課長 鈴木 弘

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☒ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない) ☒ 一部に客観性を欠いたところがある ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務執行がなされている。																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・市としては、引き続き、国・県の商店街向けの補助制度の案内や周知に努めていく。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 政策推進会議等での指摘事項
